令和４年度　岡山県立備前緑陽高等学校　学校評価書

岡山県立備前緑陽高等学校
校　長　　田　中　　薫

1　自己評価

Ⅰ評価結果
（別冊紙）
Ⅱ分析・改善方策
（１）「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
・学校評価アンケートの結果では「内容がわかりやすく魅力ある授業が多い」の肯定回答は 80%以上であり、学習実態調査でも生徒の学習時間は一定以上確保できている。国公立大学への合格も 5 名となった。
（２）教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
・コロナ禍の影響により、ボランティア活動等への参加が難しい状況は続いているが、インターンシップや職場体験への参加率は高く、また総合的な探究の時間等における備前市や各種団体との交流件数は増加している。
（３）生徒と向き合う時間の確保のため、確実に業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理意識の高揚を推進し、実践する。
・「あすかぶた」による業務改善や、簡素化に取り組む等、それぞれで効率化を図っている。

2　学校関係者評価委員名（学校運営協議会委員）

荒木　陽子（荒木旅館）
岡部　高弘（備前中学校長）
菊伊登志子（本校ＰＴＡ会長）
寺尾　俊郎（備前商工会議所 会頭）
馬場　敬士（備前市総合政策部企画課長）
三木　健郎（片上認定こども園 園長）
吉田　典子（片上小学校長）
田中　　薫（本校校長）
石原　史章（備前市教育庁教育振興部長）
梶藤　　勲（備前市総合政策部長）
谷口　健一（備前市教育庁教育振興部小中一貫教育課長）
西山　孝浩（本校同窓会長）
松畑　熙一（備前市教育委員会教育長）
三木　澄代（関西福祉大学 教授）
吉村　武司（備前市長）

3　学校関係者評価

・それぞれの分野、領域ごとの評価はもちろんのこと、学校全体としての評価や総括が必要なのではないか。
・学校の定める目標の数値とのクロス集計などがあれば、今後の方向性が出てくるのではないか。

4　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

・設備面や授業規律について改善を図る。
・新たな魅力発信に努める。
・社会で必要なマナーや規範意識の向上を図る。
・進路についての通信など、より細やかな指導ができるよう連絡調整を図る。

令和４年度「具体的な学校経営目標・計画」

岡山県立備前緑陽高等学校

基本方針： 魅力発信力の強化　①生徒たちの自己肯定感・緑陽ﾌﾟﾗｲﾄﾞの育成(生徒ﾛｺﾐ発信)
②地域連携活動や広報活動の充実(直接的発信)

（１）「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。

担当	具体的方策	達成基準	達成状況（２月１日時点）	評価
教務課	生徒の学習意欲を喚起するため「分かる・できる」授業づくりを推進するとともに、ICTを活用した新しい学びについて研究する。そのため、課内のチームや教員研修等による取組により授業力向上を図るとともに、ICT活用に向けたハード・ソフト両面の整備を行い、その成果を「見える化」し共有する。	学校評価アンケート（生徒）の項目「内容がわかりやすく魅力ある授業が多い」の肯定回答が80%以上となる。	特別支援教育の視点を踏まえ、授業開始時の「ねらい」、授業最後での「振り返り」等の重要性に着目した校内研修を実施。その実践場所として、計２回（6月、11月）の授業公開週間を実施。学校評価アンケート（生徒）は目標達成。	B
教務課（図書）	貸出冊数が増えるように図書室便りを定期的に発行したり、生徒からのリクエスト箱を設置し多様なジャンルの本を整備することで、生徒が読書に親しめる環境を整える。	図書室便りを定期的に発行するとともに、年度末に年間まとめ号を作成する。	司書の不在期間があり、図書だよりの発行が２回にとどまった。	C
生活課	全校生徒が、元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる。 教員側から生徒の手本になるあいさつをする。	ほぼ全員（95%以上）の生徒が、元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる。	挨拶ができる生徒は多い。しかし、ほぼ全員とはいかない。また、こちらから挨拶をすることで、できる者も多い。今後も働きかけが必要である。	B
生活課（厚生）	校内美化活動を通じて安全で安心な環境を整える。ロッカールーム（特に男子）の美化、全員清掃の徹底、清掃開始時間の厳守、掃除器具庫の整備（教員）を行う。	安全点検が確実に実施され、整備が必要な個所が減少する。	ロッカールームの美化は声掛けを行う事で改善が見られたが継続性に欠ける。全員清掃の徹底はほぼできているが清掃開始時間厳守の意識が薄い者も多少いる。清掃道具は整備により充実してきた。	B
進路課	・進路希望に応じた補習等などの指導を実施し、教務と連携して、学習習慣の育成と学力の向上を図る。 ・基礎力診断テスト結果に基づき、生徒個々に応じた学習課題に取り組ませる。 ・進路希望ごとの試験対策補習等を実施し、学力と面接力を育成する。	・定期考査前の学習時間について、１年は平均学習時間が60分以上、２年は学習時間120分以上の割合が60%以上となる。 ・国公立大学に３名以上合格する。	学習実態調査　R3　→　R4　　国公立大学合格５名(2/20時点) 1年：2h38分 → 2h30分 2年：2h33分 → 2h15分	A
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	・探究活動を行うフィールドである備前市と連携し、講演会や備前市内で探究活動を実施することで、生徒の探究意欲を喚起する。 ・備前市及び各種団体との協力体制を構築するとともに、生徒への事後アンケートを実施する。	・備前市及び各種団体による講演会や説明会等へ全員参加させる。 ・フィールドワーク等の現地調査を実施する。 ・備前市への興味関心や愛着、探究意欲等のアンケート項目において、肯定回答が50%以上となる。	・備前市企画課係長をコーディネーターとして、商工会議所や観光協会等とも連携し、２年次生では９月からゼミを編成し探究活動を実施、３年次生は探究活動のまとめとして「ドリカムプラン報告集」作成に取り組んだ。 ・１年次生は産業社会と人間の授業において、活躍する卒業生による講話によりキャリアプランニングへの意識を高めた。	A
学年団	1年：基本的な生活習慣の確立 2年：進路に対する意欲を高め、進路実現へ向けて行動を起こす 3年：進路実現に向け、時間をかけた具体的な行動を促す	1年：５分前着席、課題提出期限厳守、平均学習時間60分以上 2年：定期考査前学習時間120分以上の割合60%以上、資格取得生徒数の増加、就職補習の課題提出・サタセミ参加の徹底 3年：定期考査前学習時間120分以上の割合50%以上、OS・職場見学に複数回参加が80%以上	1年：平均学習時間 60分以上　75%　チャイム前着席、課題提出はある程度できた。 2年：平均学習時間120分以上　44%、就職補習の提出物、サタセミ参加は達成 3年：平均学習時間120分以上　35%、OS・職場見学複数回参加 61%	1年B 2年B 3年C

（２）教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。

担当	具体的方策	達成基準	達成状況（２月１日時点）	評価
教務課	緑陽型学習指導のスタンダードを基に「ねらい」と「振り返り」のサイクルの定着、生徒の「困り感」に寄り添った授業展開ができるよう支援する。また、生徒に「授業５＋１」を意識させ、授業に取り組ませる。	学校評価アンケート（教員）の項目「魅力ある授業づくりに努力している」の「よく当てはまる」の回答が昨年度（31%）を上回る。	校内研修により、教職員が「ねらい」「振り返り」の重要性を共通理解した上で、授業に取り組んだ。また、「困り感」を解決するための別アプローチとして、特別支援教育の視点をを学ぶような研修も行った。学校評価アンケートは目標達成。	B
広報情報課	「生徒の顔が見える広報活動」で、中学生や地域に信頼され、進んで進学したいと思われる学校となるため、生徒が主役のオープンスクールや中学校にとって魅力的な出前授業を実施するとともに、学校行事等をHPやブログ、Youtube等にアップする。	オープンスクール参加人数160名以上（R3:147名）、出前授業3件以上、ブログ更新50件、Youtubeへの動画投稿15件以上。	オープンスクール参加人数216名、出前授業3件、ブログ更新67件、YouTube投稿14件	B
生活課	・各自でチャイム前着席ができるようになる。教員が促す前に生徒自ら行動できる集団を作る。自分で考えて行動できる集団作りにより、主体性を養うことで落ち着いた環境を整える。 ・部活動を活性化させる。	・チャイム前着席が100%できるようになる。 ・前年度の部活動加入率を上回る。（R3:63.0%）	多くの生徒は時間を気にしながらチャイム前に教室に入り準備ができている。しかし教員の声かけでできている生徒も少数だがいる。意識の低下が見られるときもあるが引き続き注意していきたい。部活動加入率59.1%	B
教育相談	・教職員・保護者・ＳＣ・ＳＳＷが連携を取りながら、生徒をサポートし、安全安心な環境を整える。 ・学校生活に関するアンケートや心理検査（i-check）を年２回実施し、生徒の学校環境への適応感や心理状態を把握するとともに、指導に生かしていく。	教育相談室の利用が活性化する。（前年度 相談室利用 生徒のべ人数57名）	カウンセリングが必要な生徒はもちろん保護者に対しても、担任と連携して勧めることができ、支援につなぐことができた。また、必要に応じてスクールソーシャルワーカーからアドバイスをもらい、ケース会議を開いて組織的に支援が必要な生徒に働きかけることができた。	A
進路課	・Bプロ室（「総合的な探求の学習」「産業社会と人間」などの授業）および広報情報課と連携する中で、キャリア教育、地域連携活動、社会体験活動を推進することで、進路意識を高め、早い時期での進路目標の設定を図る。 ・表現力、コミュニケーション力をさらに向上させるとともに社会人としての良識を身につけさせる。	・社会体験活動（インターンシップ、職場見学など）への参加率が全校生徒の30%以上になる。 ・学校評価アンケートの「進路決定の指導」の評価が前年度平均を上回る。（R3:生徒84%　保護者74%）	１年：計16名　２年：計117名　３年：計41名　　合計　173名/385名：45.5% 進路だよりは４・５月、10月に発行 学校評価アンケートは、前年度平均を上回った。	A
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	・「びぜんみらい学（総探）」「産業社会と人間」の授業の中で、キャリア教育、社会体験活動を推進することで、表現力、コミュニケーション力をさらに向上させるとともに社会人としての良識を身につけさせる。 ・ゼミ探究活動と備前市各種団体との交流活動を充実させ、学校見学、職場見学などの社会体験活動への参加を推進する。	・備前市および各種団体との交流件数および回数の増加。 ・２年次生中間報告会、３年次生報告会の実施。	１年次「産業社会と人間」の授業において活躍する卒業生の講話でキャリアプランニングへの意識を高めた。 ２年次「フィールドワークin備前」で地域の現状を知り、「Bizen Meeting」で課題設定について探究し、９月よりゼミを編成し探究活動をスタートさせた。 進路課と連携して、「備前市役所」でのインターンシップに５名の生徒が参加。備前商工会議所と連携し、会員企業に取材し、オンライン産業フェスタ用クイズを50問程度企業と一緒に作成した。	A
学年団	1年：生徒の主体的な活動を促し、学校生活の魅力に気付かせる 2年：生徒の主体的な活動を促し、学校生活の魅力に気付かせる 3年：進路の場面で「高校生活で頑張ったこと」を明言できるような活動を促す	1年：部活動加入率70%以上、社会貢献活動２回以上が７割 2年：部活動継続率90%以上、社会貢献活動２回以上が６割 3年：「頑張ったこと」として、学校行事、部活動、社会貢献活動を挙げる。	1年：部活動加入率53%（部活動加入率70%以上は達成できていない） 2年：部活動加入率63%（部活動継続率90%以上を維持） 3年：社会貢献活動10ポイント以上は42%	1年C 2年B 3年B

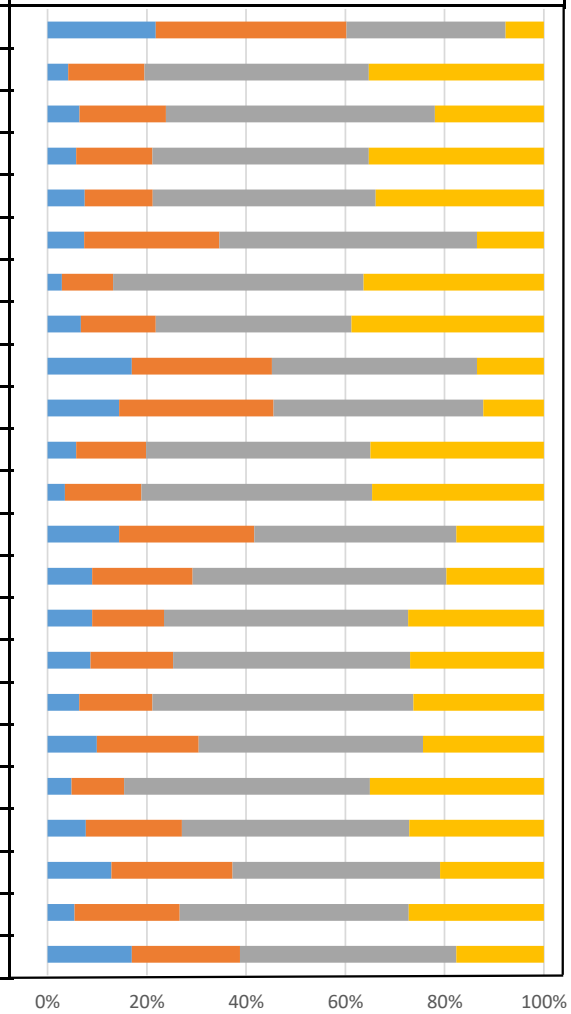
（３）生徒と向き合う時間の確保のため、確実に業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理意識の高揚を推進し、実践する。

担当	具体的方策	達成基準	達成状況（２月１日時点）	評価
全体	・業務量把握のため、個人の時間管理を徹底する。 ・ＩＣＴ担当を中心に、校務のＩＣＴ化に３つ以上取り組む。 ・部活動顧問の協力体制を構築する。（休日の活動及び引率の分担等）	月あたり時間外在校等時間を前年度から5%以上削減する。(R3：41.0時間)	月あたり時間外在校等時間：43.1時間(R4.4～R5.1)　(42.6時間(R3.4～R4.1)) 修学旅行先でのコロナ対応など、特殊な事情もあった。「あすかぶた」による業務改善や、定期的な個別指導に取り組んだ。	B
教務課	個々人が時間管理意識を持ち、基本的な仕事の進め方（報告・連絡・相談）を担当者間（課長等含む）で共有し、定期考査実施、成績処理、科目選択事務、教科書採択事務、入試事務を確実に遂行する。また、事務処理等に係る過剰な業務の「あ・す・か・ぶ・た」を推進するとともに、各教務課作業のマニュアル化を図る。	月あたり時間外在校等時間を前年度から削減する。(R3：41.0時間)	教務業務の中で、無駄とおもわれるものや不必要なもの、費用対効果が悪いものなどを思い切って廃止や簡素化するような試みを行い、業務の精選を行ってきた。	B
広報情報課	学校評価の集計方法を整理して効率化を図る。	・保護者アンケートの回収率を60%以上とする。 ・エクセルシートが改善され、業務が効率化される。	エクセルシートの改善を行った。保護者アンケートの回収率は56%。	B
生活課	各クラス、学年集会、全校集会等で規範意識の重要性を認識させることで各種指導の減少を図り、スムーズに業務を遂行する。	学校評価アンケート（生徒）の項目「社会のルールや日常生活のマナーといった基本的生活習慣が身につくように指導してくれている」で肯定的な回答が前年度を上回る。（R3：88%）	集会やSHR等でルールや生活のマナーといった規範意識を持たせる話を行ったが、肯定回答は83%であった。	C
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	・学年団、備前市及び関係団体と連携し、円滑な業務運営を実践する。 ・会議を適切に設定するともに、継続的な活動を意識した資料作成および蓄積を行う。	・効果的な推進室会議の開催と、室全体での情報共有を行う。	必要に応じてその都度打合せを行い、進路課や各年次団と打合せを効率よく実施した。情報共有については、次につながるよう、資料を蓄積した。	A
学年団	1年：生徒と向き合う時間を確保する。 2年：生徒と向き合う時間を確保する。 3年：生徒と関わる時間を確保するための基本的な生活習慣の維持・向上	1年：学年会は平均月2回まで、時間は17:00を超えないように 2年：学年会は平均月2回まで、時間は17:00を超えないように 3年：年間皆勤者数、欠席ゼロの生徒数の維持・向上、提出物期限厳守指導の徹底、進路決定後の学校生活状況の維持	1年：月1-2回のペースで実施、1時間以内で終わるようにできた。 2年：1月まで18回実施、月平均1.8回 3年：2学期以降、欠席者が大幅に増加した。	1年B 2年A 3年C

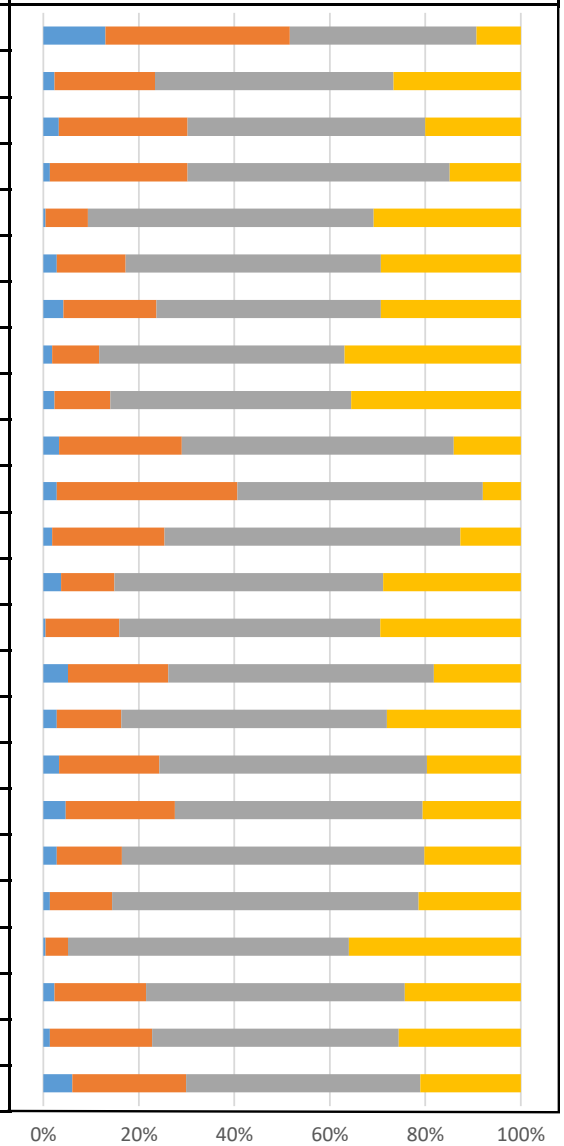
令和４年度　学校評価（生徒）

あてはまらない→1　あまりあてはまらない→2　ややあてはまる→3　あてはまる→4

	評　価　項　目	回答（%）			
		1	2	3	4
2	家庭での学習は定着している。	18	32	27	6
3	進路決定に向けて先生方は情報を提供してくれたり、相談にのってくれるなど、きめ細かく指導してくれている。	3	13	38	29
4	科目選択に関してｶﾞｲﾀﾞﾝｽが充実している。	5	14	45	18
5	各種の資格・検定の受験率や合格率向上のための指導を十分してくれている。	5	13	36	29
6	授業の中でコンピュータやビデオなどの情報機器や視聴覚機器がよく使用されている。	6	11	37	28
7	内容がわかりやすく魅力ある授業が多い。	6	23	43	11
8	学習の評価はテストの得点だけでなく、授業態度や生徒の努力なども含めて行われている。	2	9	42	30
9	学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのように行動すれば良いか知らされている。	6	13	33	32
10	学校の施設・設備は授業や学校生活がしやすいよう整備されている。	14	24	34	11
11	地域の人は学校に関心を持っていると感じることが多い。	12	26	35	10
12	社会のルールや日常生活のマナーといった基本的生活習慣が身に付くよう先生は指導してくれている。	5	12	38	29
13	学校は奉仕活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。	3	13	39	29
14	学校生活に関する指導方針や指導方法について納得できる。	12	23	34	15
15	先生に悩みや相談がしやすい雰囲気がある。	7	17	42	16
16	先生は自分たちの意見を大切にしてくれていると感じる。	7	12	41	23
17	学校の部活動は活発である。	7	14	40	22
18	人権の大切さを学び、それが日常生活に生かされている。	5	12	44	22
19	感動できる学校行事があり、楽しく参加できるよう工夫されている。	8	17	38	20
20	科目選択は興味、関心、適正、進路希望に応じて選択できるようにしてくれている。	4	9	41	29
21	LHRの時間をクラスづくりなどに有効に利用している。	6	16	38	23
22	特色のある学校を目指していると感じる。	11	20	35	17
23	総合学科の生徒として自ら考え行動できるようになった。	5	18	38	23
24	緑陽生として誇りを持っている。	14	18	36	15



令和４年度　学校評価（保護者）

あてはまらない→1　あまりあてはまらない→2　ややあてはまる→3　あてはまる→4

	評　価　項　目	回答（%）			
		1	2	3	4
1	子どもの家庭での学習は定着している。	13	39	39	9
2	進路決定に向けて情報を提供してくれたり相談にのってくれるなど、きめ細かい指導がなされている。	2	21	50	27
3	科目選択の担任による面談や相談は、きめ細かく行われていると感じる。	3	27	50	20
4	子どもは授業の内容を理解しているようだ。	1	29	55	15
5	学習の評価はテストの得点だけでなく、授業態度や子どもの努力なども含めて行われている。	0	9	60	31
6	生活面はもちろん、施設や設備面も含め、子どもを安心して任せられる学校である。	3	14	53	29
7	子どもの出欠や学習状況など学校生活について家庭への連絡がよくなされている。	4	20	47	29
8	学校は家庭からの連絡や相談に適切に対応している。	2	10	51	37
9	保護者面談は回数、質ともに満足できる。	2	12	50	36
10	保護者や地域の人が積極的に参加できるように学校行事を工夫している。	3	26	57	14
11	保護者は学校に関心を持っていると感じることが多い。	3	38	51	8
12	学校はPTA活動に対して支援・促進に努めている。	2	23	62	13
13	社会のルールや日常生活のマナーといった基本的生活習慣が身に付くよう学校は指導している。	4	11	56	29
14	学校は奉仕活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。	0	15	55	29
15	学校の生徒指導方針に共感、理解できる。	5	21	56	18
16	教員は、子どもの相談、質問等に的確に対応している。	3	14	56	28
17	教員は、子どもの多様な意見を大切にしている。	3	21	56	20
18	学校の部活動は活発である。	5	23	52	21
19	学校は全ての教育活動について生徒の人権を尊重する姿勢で教育にあたっている。	3	14	63	20
20	楽しく参加できるよう、学校行事は工夫されている。	1	13	64	21
21	選択科目は興味、関心、適性、進路希望に応じて選択できるようになっている。	0	5	59	36
22	特色のある学校を目指していると感じる。	2	19	54	24
23	子どもは高校生として自ら考え行動できるようになっている。	1	21	52	26
24	子どもは備前緑陽高校の生徒として誇りをもっている。	6	24	49	21